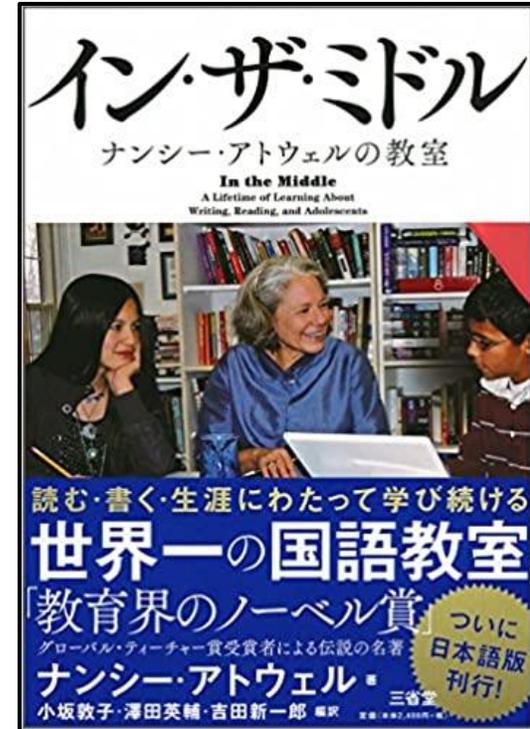


# 中学校3年間の ライティング・ワークショップの実践

附属国際中等教育学校 廣瀬 充

# ライティング・ワークショップとは

本物の作家や詩人や批評家、  
ジャーナリストがやっているように、  
生徒が自分で書きたいことを選んで、  
大量の読み書きを通じて自立した書き手  
になっていくことを目指した教育方法



ナンシー・アトウェル (2018) 『イン・ザ・ミドル』

Cf. Do a subject (教科する)、Authentic Learning (真正の学び)

# ライティング・ワークショップとは

**対象**：中学3年生4クラス（1クラスあたり30名程度）

➤本学年では中学1年生より継続して実施

**時数**：週2時間

※他1時間は教科書を用いた授業（山根先生）

**場所**：メディアセンター



# 授業の進め方

## 生徒の持ち物



アイデアノート



30穴ファイル



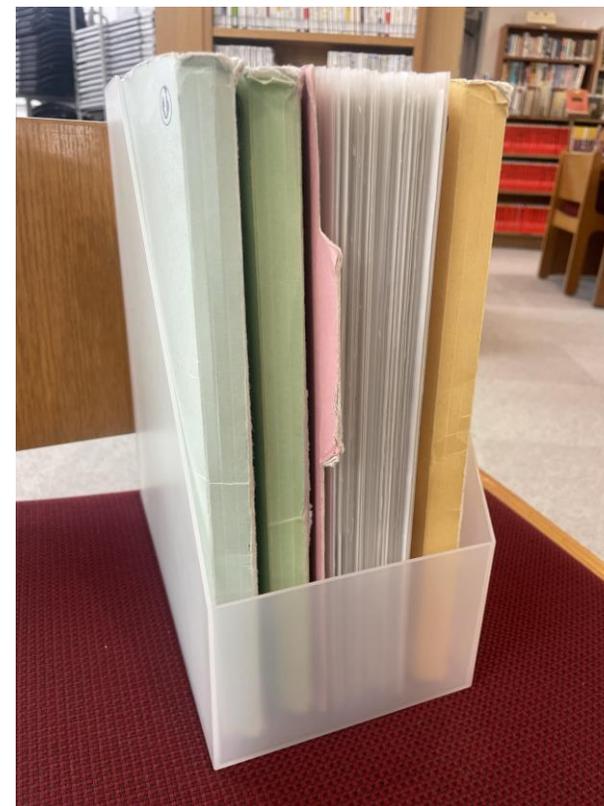
漢字練習帳



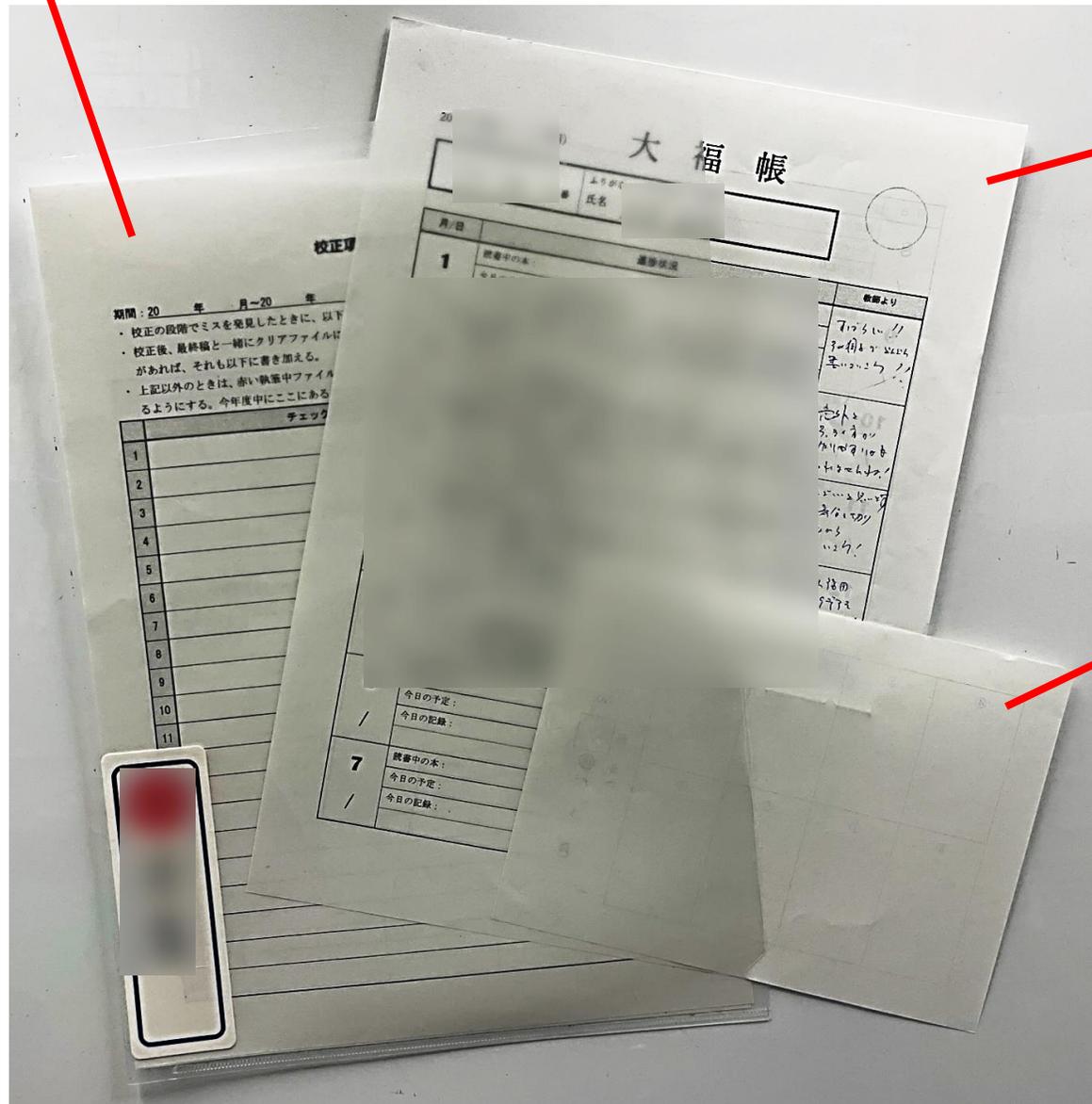
クリアファイル

# 授業の進め方

## **授業前** 自分のクリアファイルを取る



# その他（「校正項目リスト」など）



## 大福帳

…その日の予定や記録を書くもの

## 採点済の漢字テスト

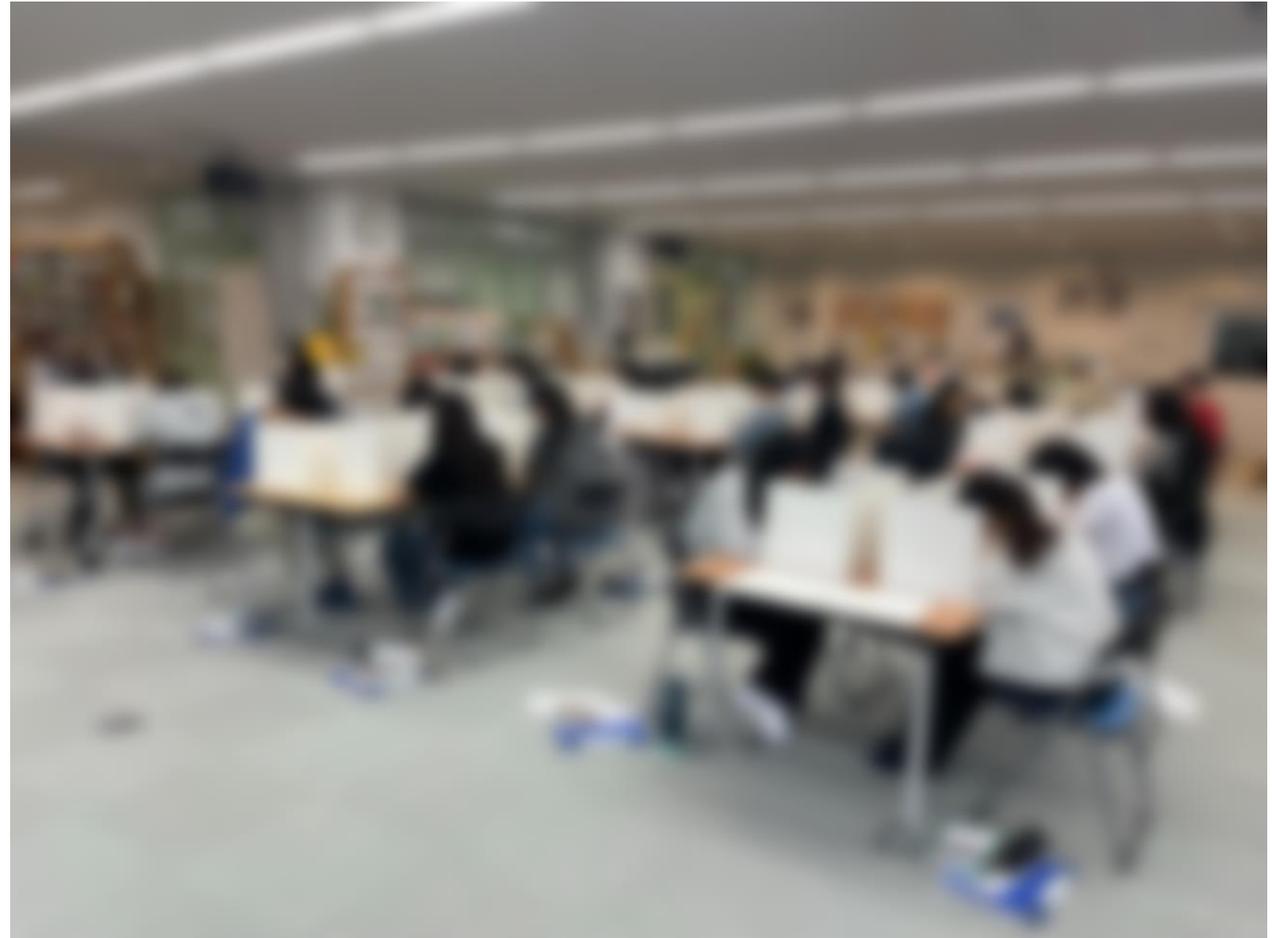
➤漢字練習帳に貼って、間違えたものを書き直して、提出

# 授業の進め方

## 授業開始

### ① 漢字テスト

- 授業者は次の授業までに採点をして、クリアファイルに入れておく

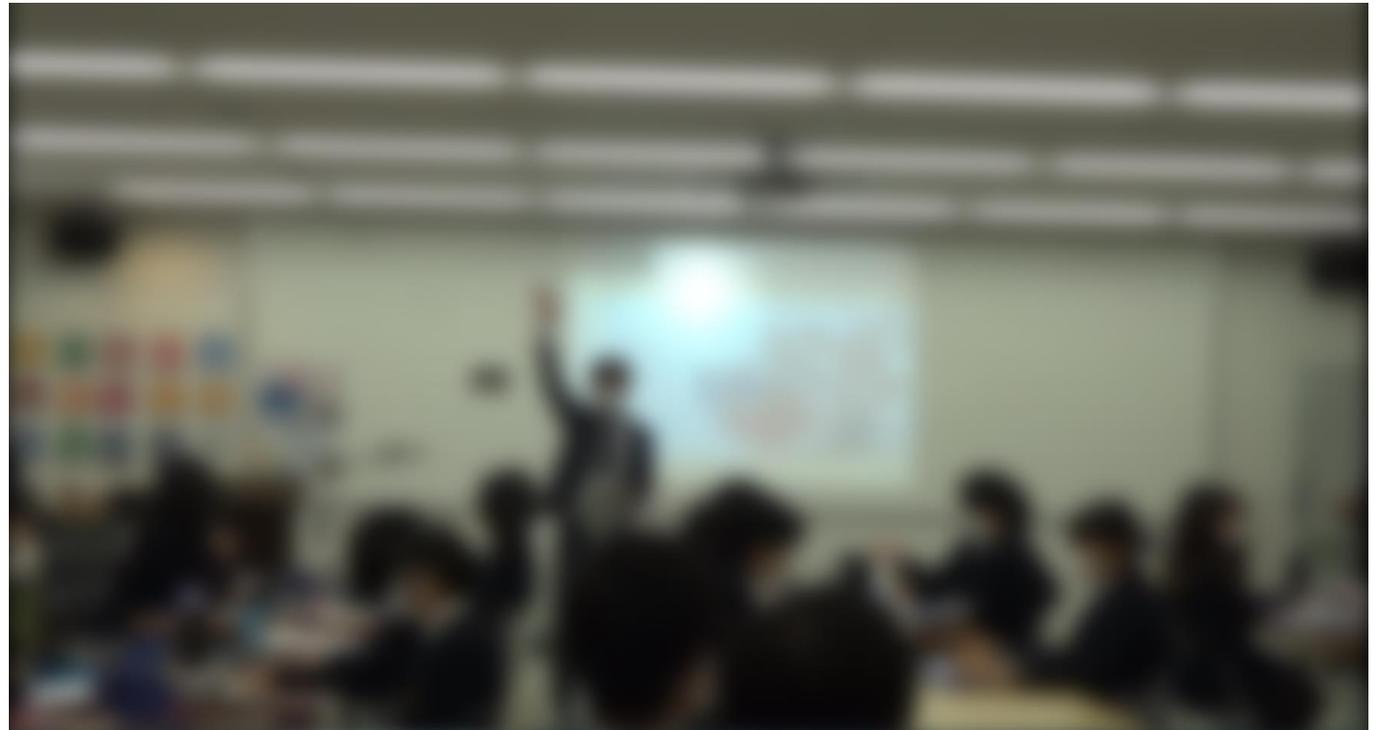


# 授業の進め方

## ② ミニレッスン（10分程度）

授業の最初にクラス全員に対して、短く教える時間

- 主に「書く手順」  
「書き手の使う技」  
「書き言葉の慣習」  
「ジャンルに関する知識」などを扱う



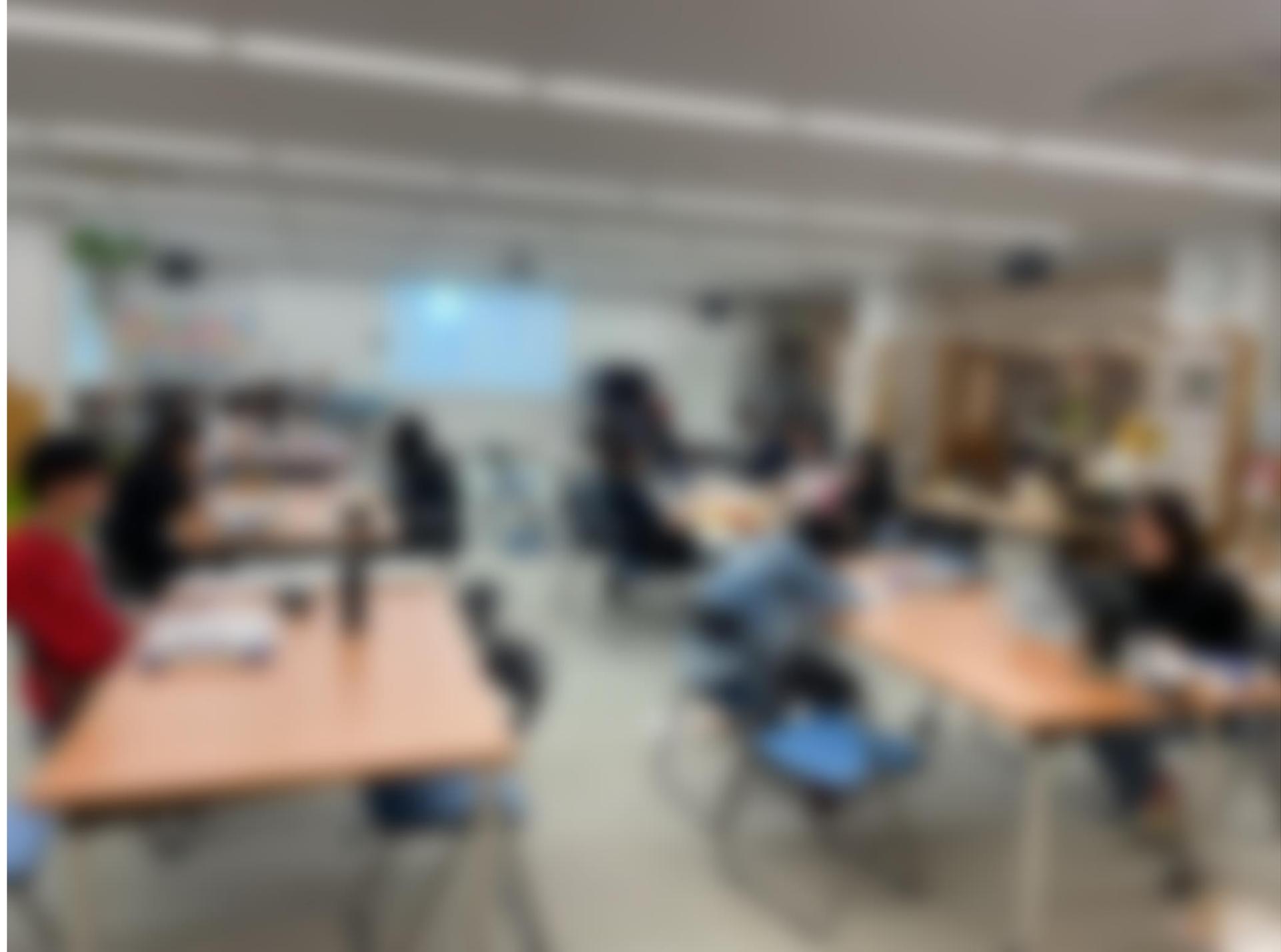
# 授業の進め方

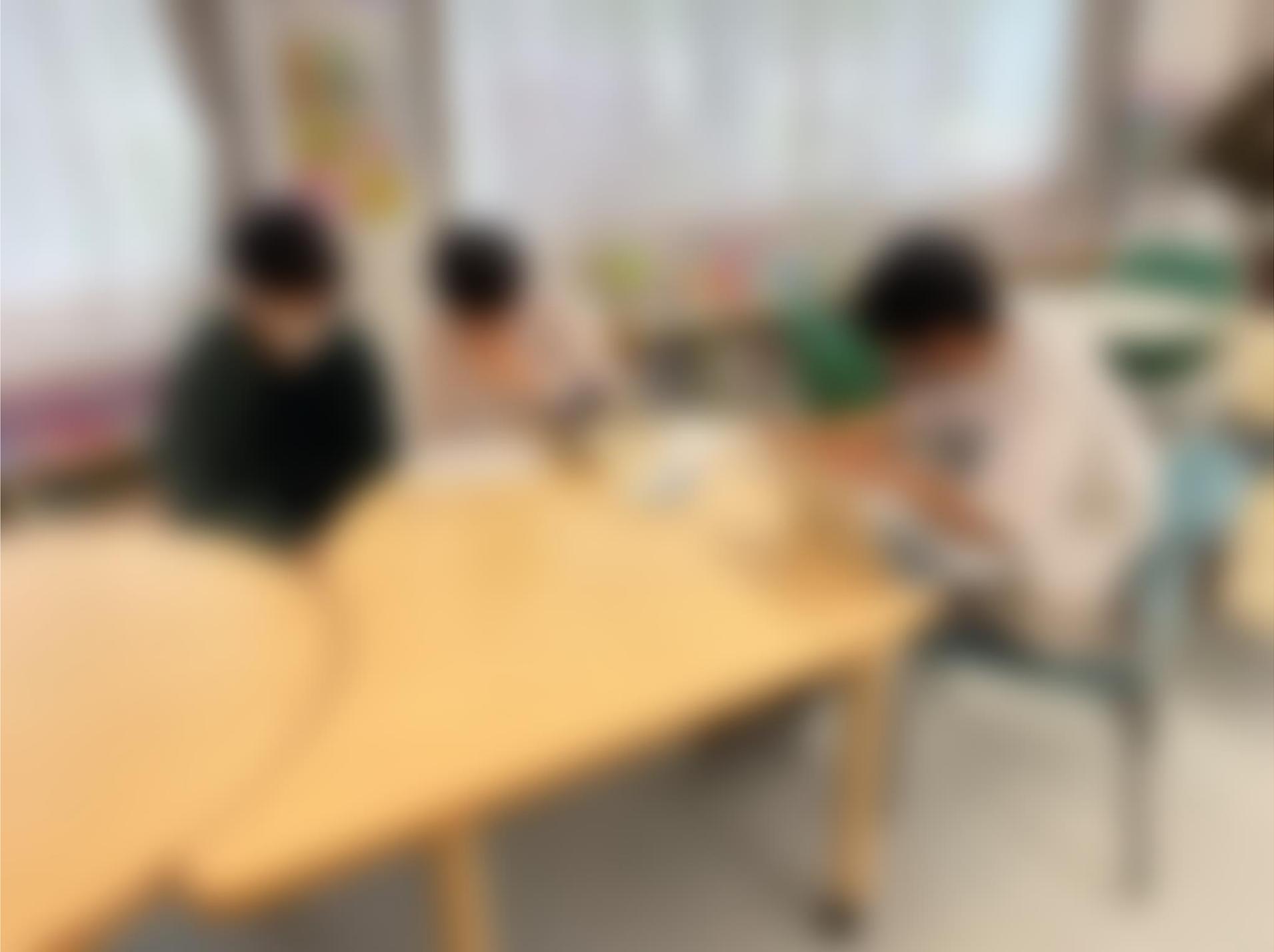
## 書く時間

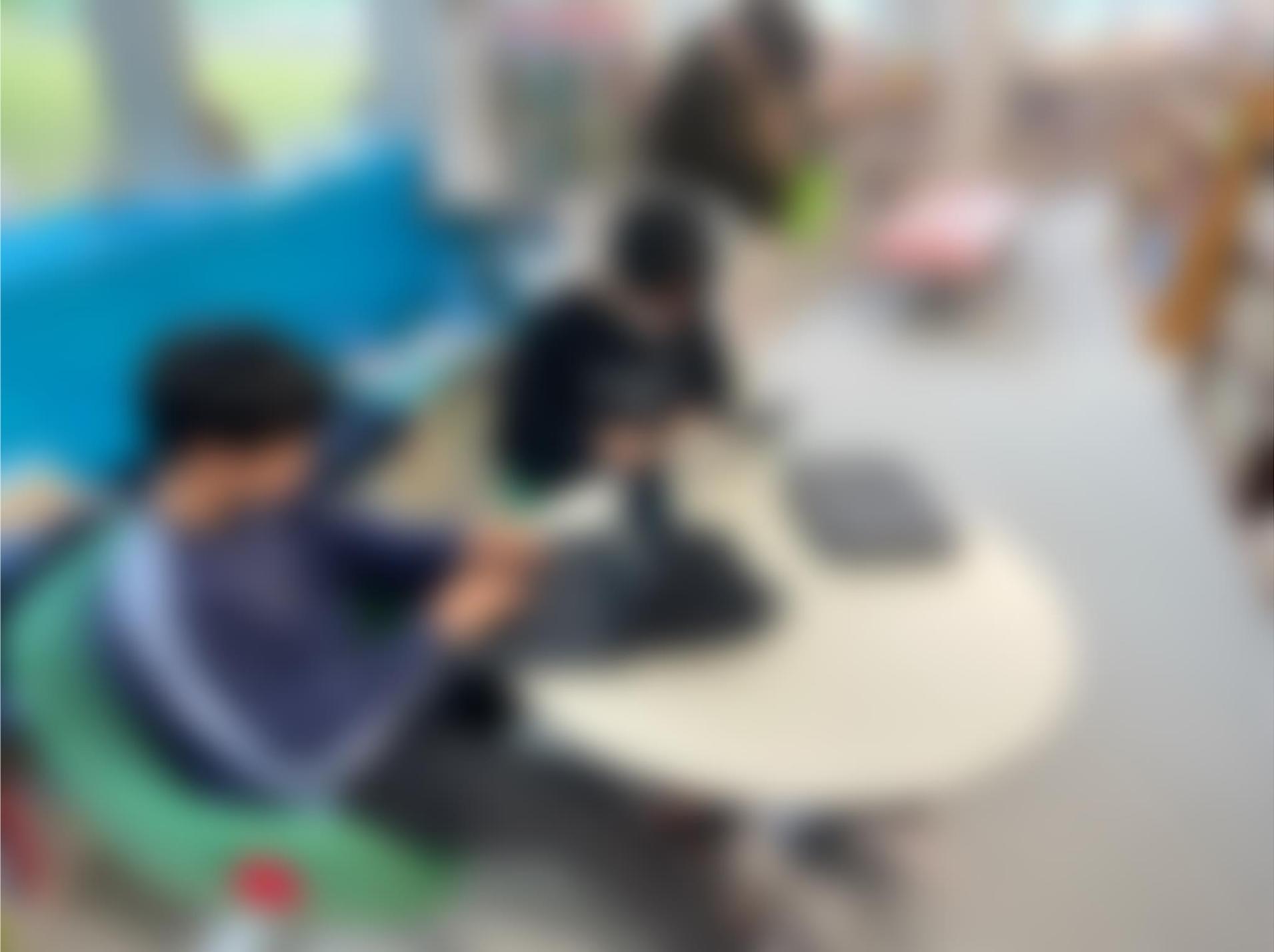
- ③ 大福帳に今日の予定（その日に取り組むこと）を記入し、各自自分の作品に取り組む
- ✓ 基本的には一人ひとり静かに書くが、相談コーナーを利用して良い
  - ✓ 教員は気になる生徒を中心にカンファランスを行う

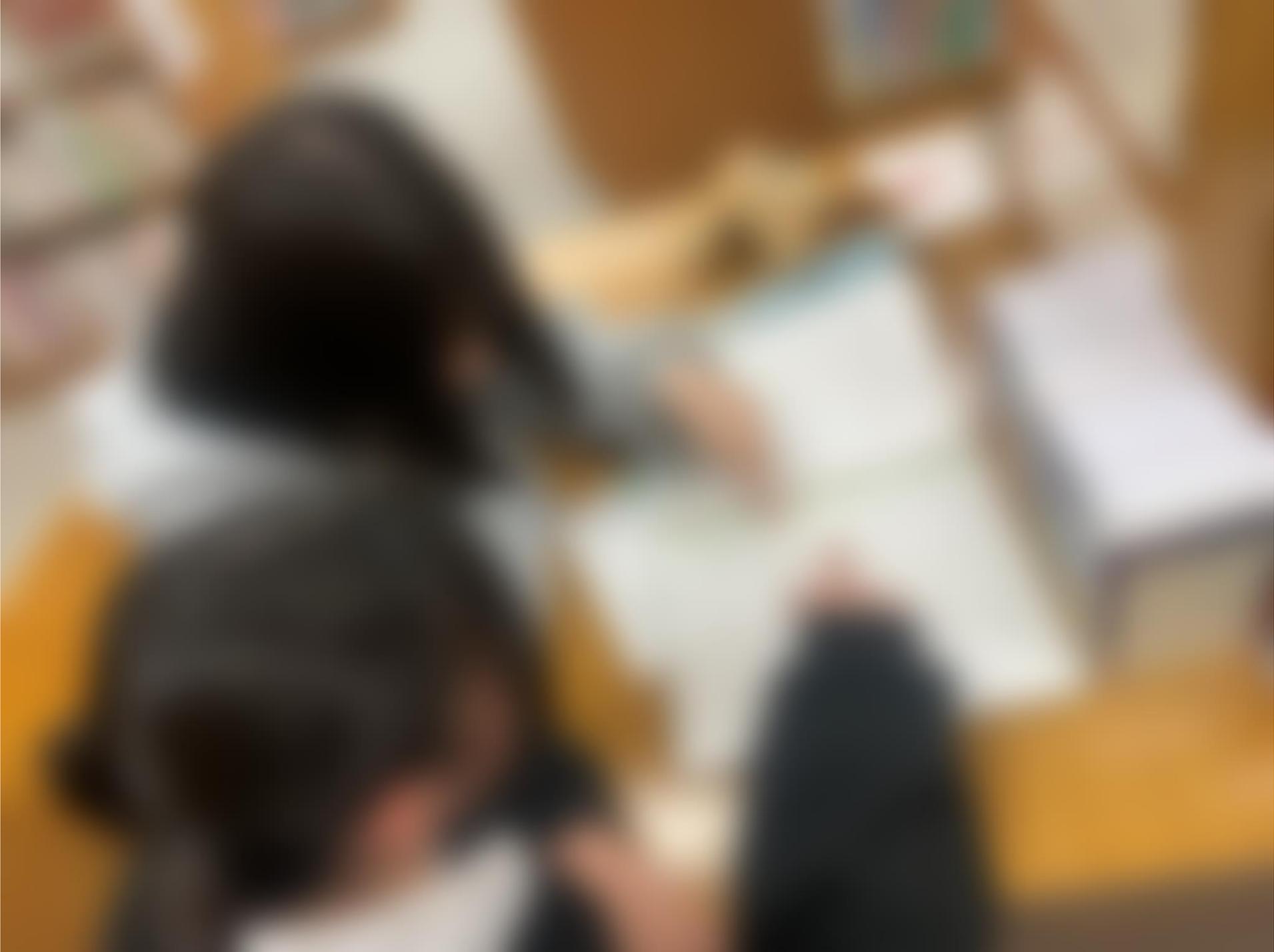


生徒とのやりとりを通して一人ひとりをサポートする方法



















後ろのボードの掲示中!  
新聞の書評欄に掲載された本たち

を読み比べてみよう!

LGBTQ+

1 2 3 4 10 11 12 13 14 15 20 21

22 23 24 25 26 27 29 30 31 32 33 34 35 37 38 39 40 41 42

# 授業の進め方

- ④ 大福帳に今日の記録（進捗状況）を記入し、クリアファイルにしまい、返却する

月/日	進捗状況	教師より
1 /	読書中の本： ( / ページ)	白次から 5 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> p 7 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> p. 12 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> p. 2'0 知ってたり 早くとめ2829!
	今日の予定：	
	今日の記録：	
2 /	読書中の本：	まりは 「4」3頁まで と3からせよとの いかん?
	今日の予定：	
	今日の記録：	
3	読書中の本：	2冊と1,0'(と
	今日の予定：	

➤ 授業者は次の授業までに確認し、カンファランスに活かす

No	年	組	番	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
					19	20	26	27	2	9	16	17	24	2	3
					木	金	木	金	木	木	木	金	金	木	金
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															

## 出席簿の翌授業日の欄の 右上に印をつけておく

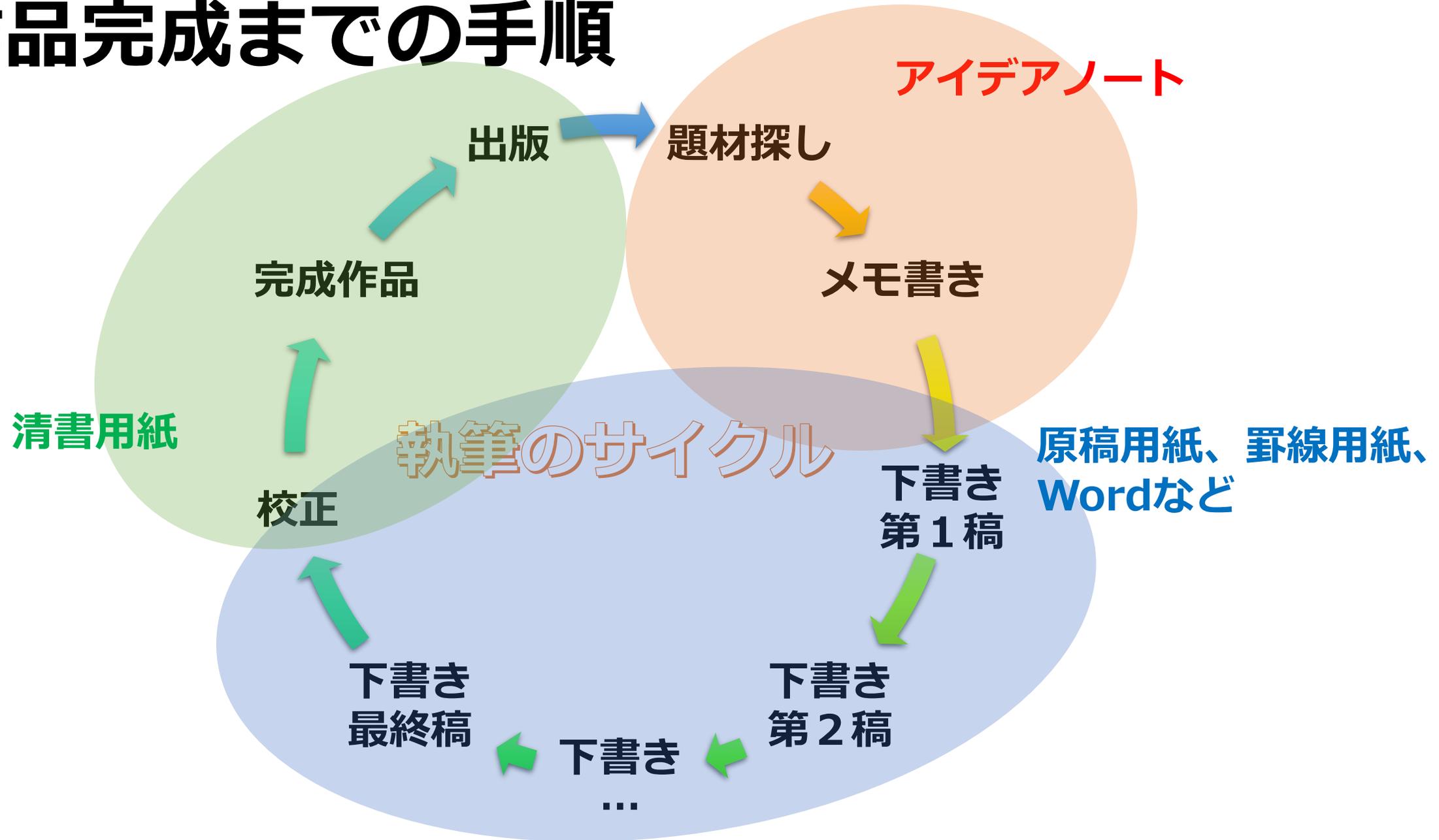
**青** … 気になる生徒

**赤** … 進捗状況が不明な生徒

**緑** … 校正して返却した生徒

※丸の大きさと重要度を表す

# 作品完成までの手順



# 作品完成までの手順

## 推敲

文章の**内容**や**表現**を吟味して**練り直す**こと

## 校正

文章の**誤字**・**脱字**や**誤植**を見つけ、**修正**すること

推敲

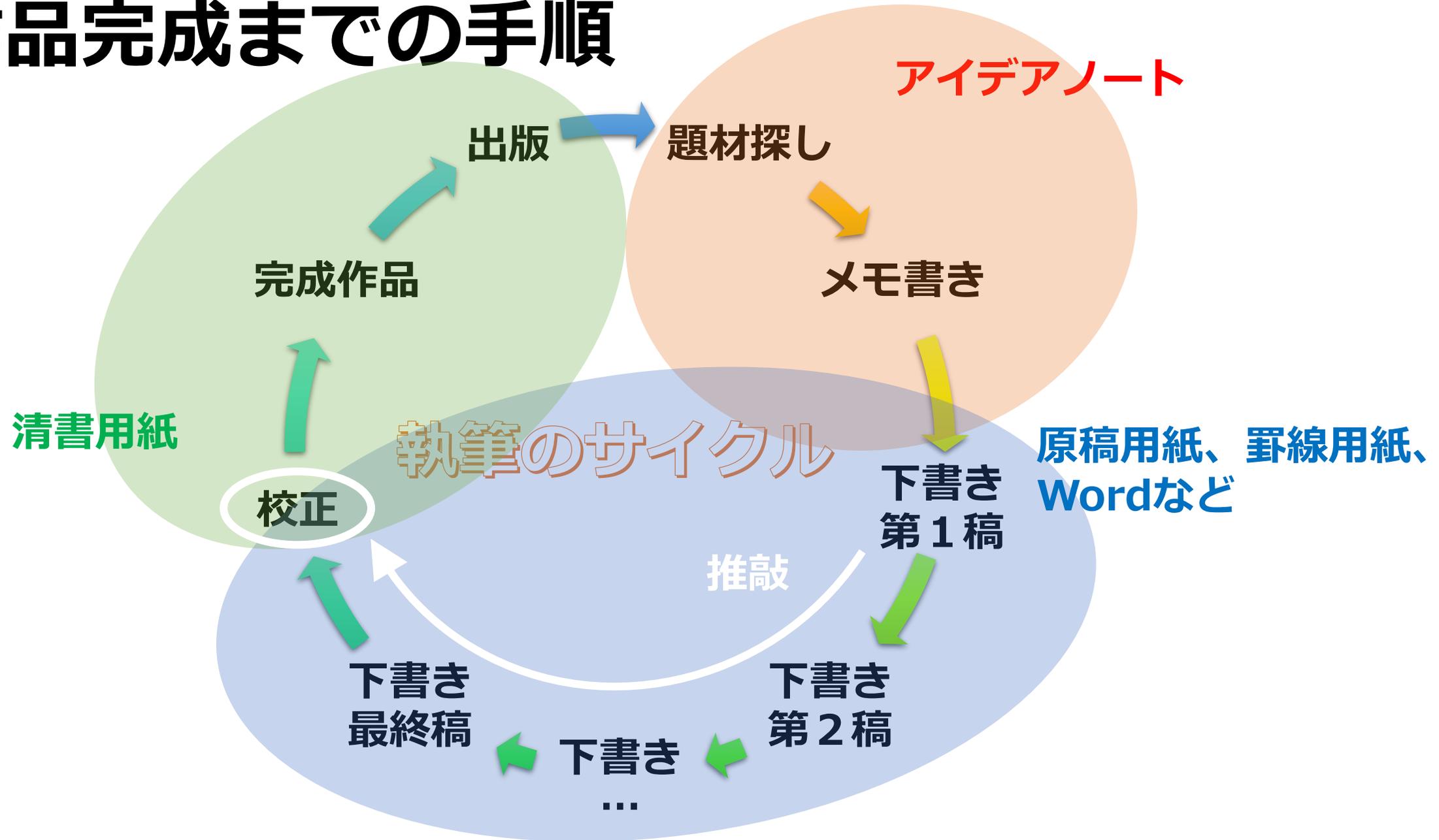
推敲

推敲

校正

第1稿 → 第2稿 → … → 最終稿 → 清書

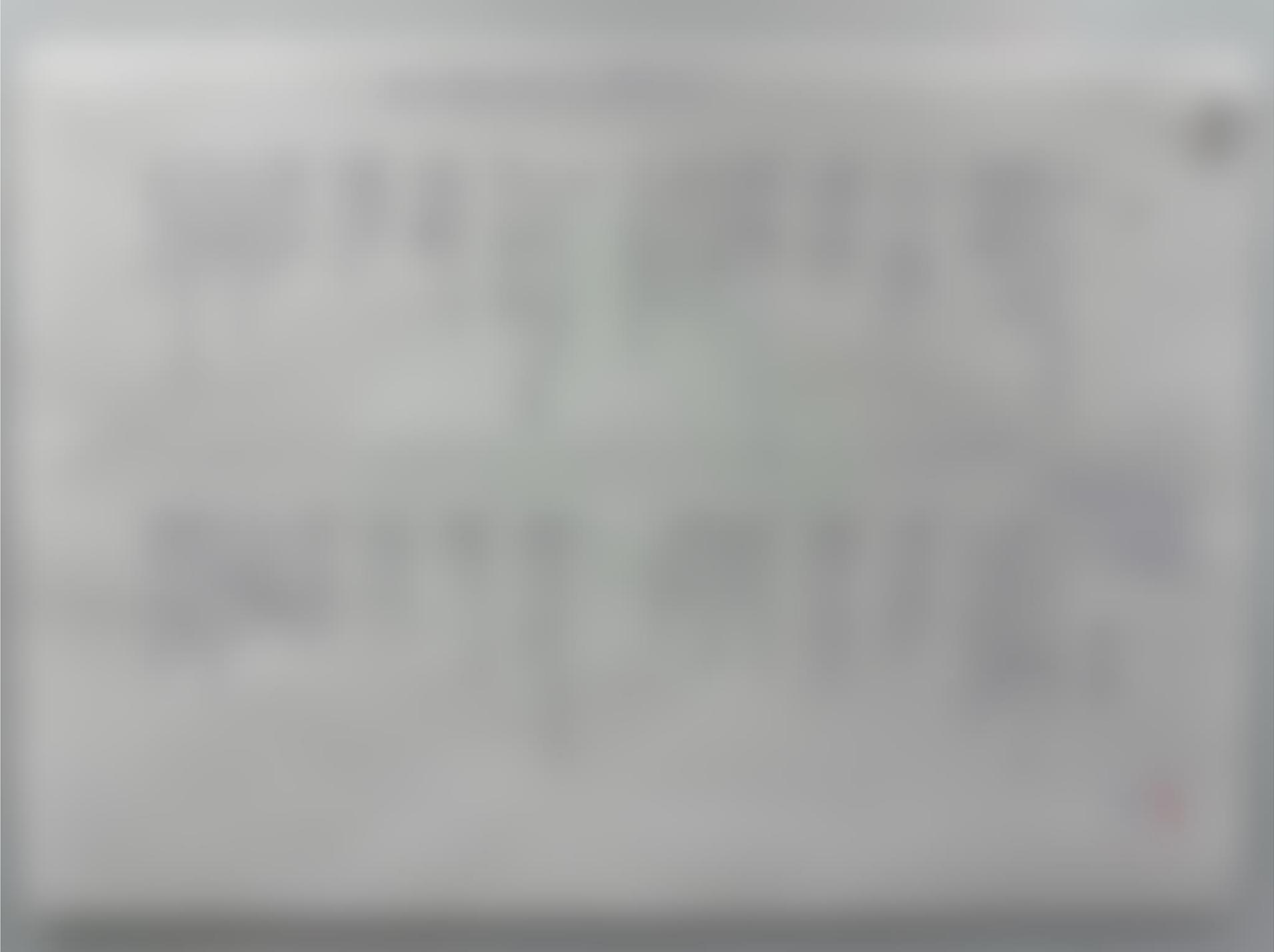
# 作品完成までの手順



# 作品完成までの手順

## 校正

- ① ある程度納得できるものができたら、それを最終稿とする
- ② 最終稿を読み直し、ミスがあれば赤ペンで書き直す（PCで書いている場合は、必ず紙に印刷して読み直す）
- ③ 校正した最終稿をクリアファイルに入れて提出する  
（授業者は、次の授業までに青ペンで校正し、クリアファイルに入れておく）
- ④ 次の授業で、授業者に校正されたミスを確認し、それを踏まえて、清書用の用紙に完成作品を書く



# 作品完成までの手順

**出版** …自分の中だけにとどめず、外に発信したり、公表したりすること

## ➤ 中高生に取り組みやすい出版の例

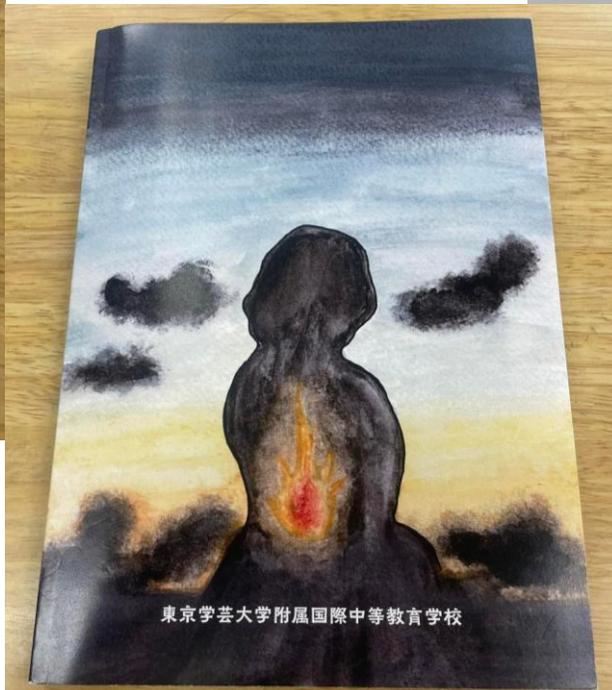
- 印刷して、友人や家族と共有したり、プレゼントしたりする
- 他の人と文集、文芸誌などをつくる
- 新聞や雑誌などに投稿したり、コンクールに応募したりする
- 公的な場（学校を含む）に掲示したり、展示したりする
- 特定の人に手紙を書く（お礼状、ファンレター、請願書など）
- ブログやSNSにアップする

# 作品完成までの手順

**出版** …自分の中だけにとどめず、外に発信したり、公表したりすること

## ➤一年間の集大成として作品集の制作

- 一年間で自分が書いた作品の中で、最も良い（あるいはこれなら人に見せても大丈夫だ）と思う作品を選び、Wordのテンプレートにペーストして提出
- 作品集のタイトル案と表紙作成者も募集（最終的に投票で決定）



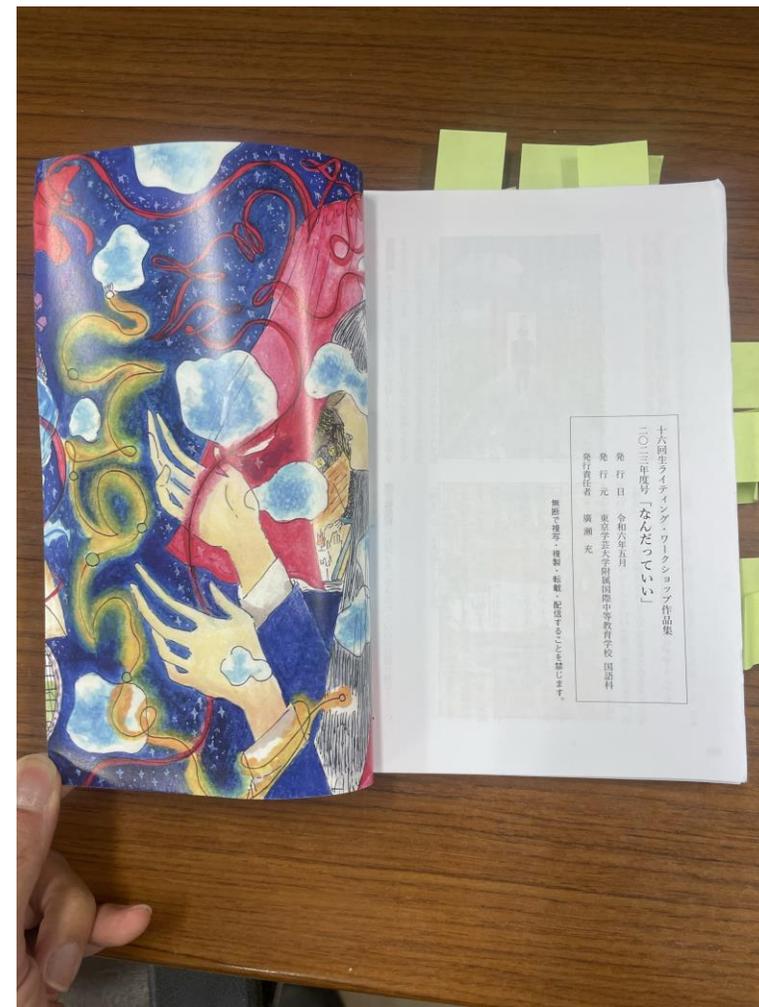
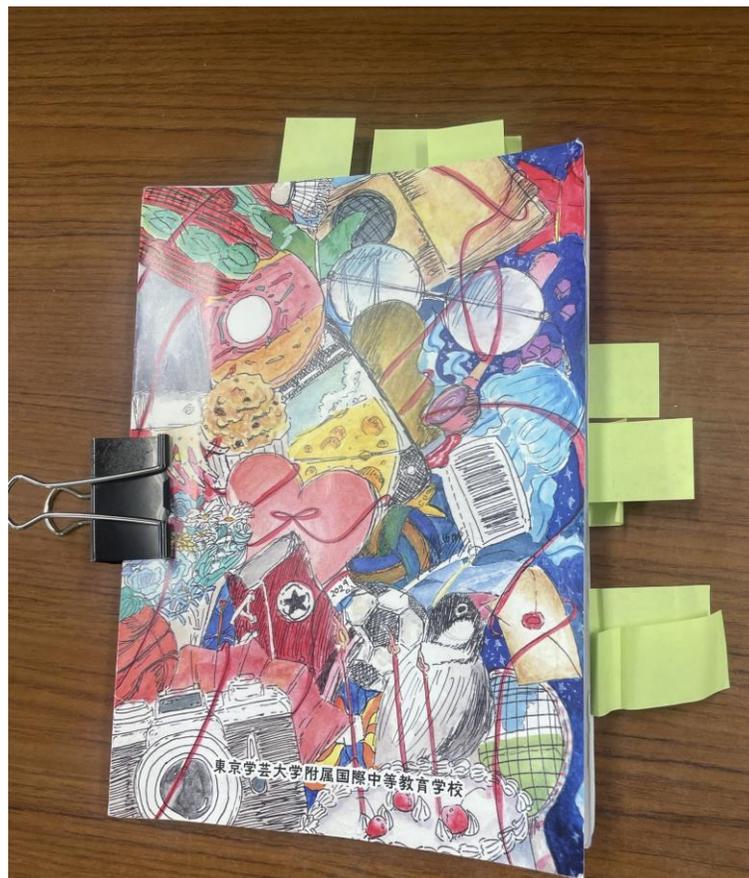
私達十六回生にとって最初の作品集。  
これから私達が歩いていくのは無限に広がる暗闇の中。  
これから私達が歩いていくのはわかりません。  
その暗闇の先に何かがあるかはわかりません。  
非情な世界の中でも自信を持って踏み出せるスタートとなるように。  
凡庸な才能でもいつか開花する自分だけの希望となることを願って。  
だからタイトルを「灯火」に決めました。  
だからタイトルを「灯火」に決めました。  
これを読んでいる貴方もきっと勇気づけられると信じています。

### 目次

一、詩	2
二、短詩・短歌・俳句集	30
三、物語・小説	33
四、ノンフィクション	184
五、その他	210

2022年度 (1年生)  
『灯火』

# 2023年度（2年生） 『なんだっていい』



十六回生ライティング・ワークショップ作品集  
二〇三年度号「なんだっていい」  
発行日 令和六年五月  
発行元 東京学芸大学附属国際中等教育学校 図書科  
発行責任者 廣瀬 光  
印刷場所・複製・転載・配付することを禁じます。

# 学期末評価の仕組み

## ノルマ

**×切までに完成作品の中から評価用に3作品を提出**

### ① 以下を一つのクリアポケットに入れる

- ✓ **完成作品** (これが一番上になるように)
- ✓ **それまでの下書きすべて** (パソコンで作成した場合もすべて紙に印刷する)
- ✓ **アイデアノートの抜粋**

**清書**

**最終稿**

**第1稿**

**アイデアノートの抜粋**

➤ **これが3セット  
できる**





# 学期末評価の仕組み

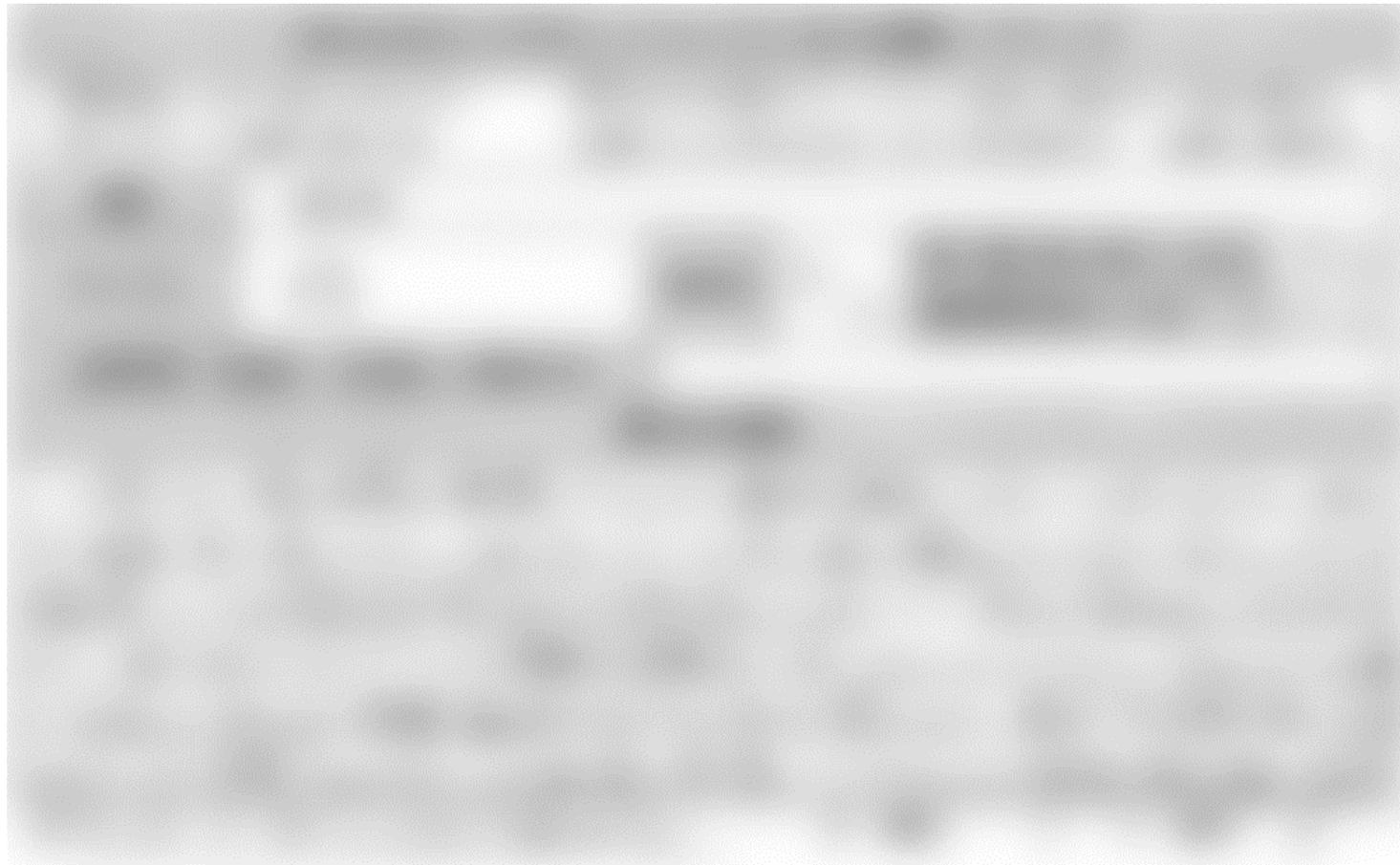
## アイデアノートの抜粋の提出について

「これなら人に（教員に）見せてもよい」と思えるページを生徒自身に選択させ、それをコピーしたものを完成作品に添付させる

- どのような過程を経て作品が完成されたのかを看取ることができたり、生徒のアイデアノートの活用を促し、日々書くことに意識が向くようにさせたりすることができる

# 学期末評価の仕組み

## ② 3作品と併せて「評価用シート」を提出



➤ 「書き手の意図」を具体的に説明する

←ルーズリックで評価して返却

# 学期末評価の仕組み

## 「書き手の意図」の説明について

「何を表現したかったのか」「それを表現するために、どのような工夫をしたのか」を言語化させる

- 作品の質だけではなく、「意図が成功しているかどうか」という視点から評価が可能となる
- 生徒に自身が書いたものをメタ認知させることができ、「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」に目を向けられるようになっていく

# 学期末評価の仕組み

## ルーブリック

	プロセス をもとに評価	「書き手の意図」 をもとに評価
IB MYPの 観点	B 構成	C 創作
文科省の 観点	主体的に学習に 取り組む態度	思考・判断・表現

# ジャンルのノルマ

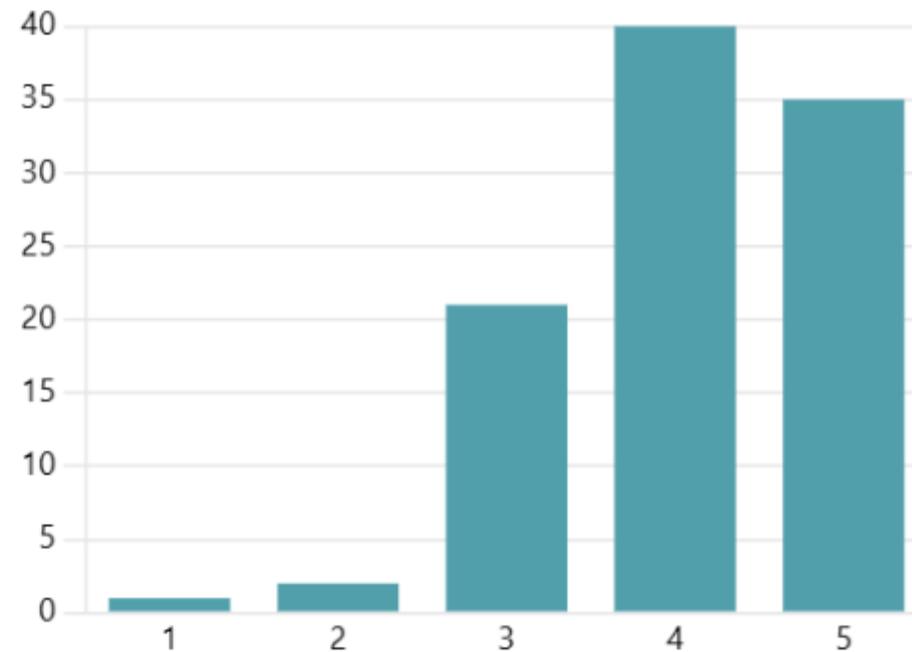
	1年生	2年生	3年生
1学期	詩 新聞投稿 (意見文、エッセイ) 自由	短歌 新聞投稿 (意見文、エッセイ) 自由	俳句 新聞投稿 (意見文、エッセイ) 自由
夏・2学期	説明文・解説文 (スピーチ) 物語・小説 or 自由 自由	意見文・論説文 (スピーチ) 戯曲 or 自由 自由	批評文・鑑賞文 (スピーチ) (検討中) 自由
3学期	物語・小説 or 自由 自由 IDU (ポスター・音声) ※やさしい日本語	戯曲 or 自由 自由 IDU (ポスター・音声) ※日本語・日本文学の歴史	長めの作品 (IDU?)

➤ ミニレッスンもこれと連動して組織

# 成果：2年生年度末アンケートから

2年間を通して、どのくらい書くことが好きになりましたか。

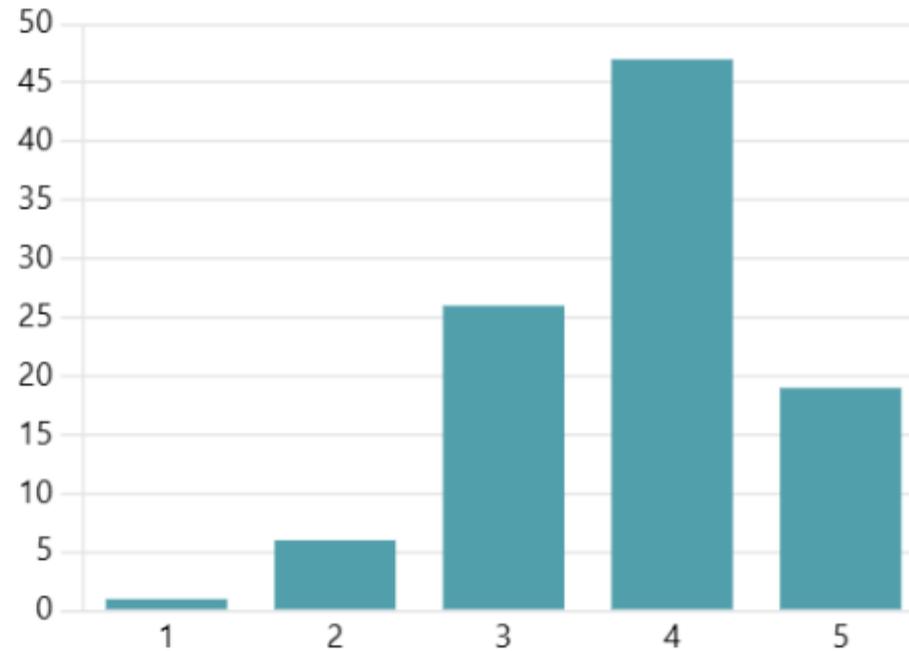
4.07  
平均評価



# 成果：2年生年度末アンケートから

2年間を通して、どのくらい書くことが得意になりましたか。

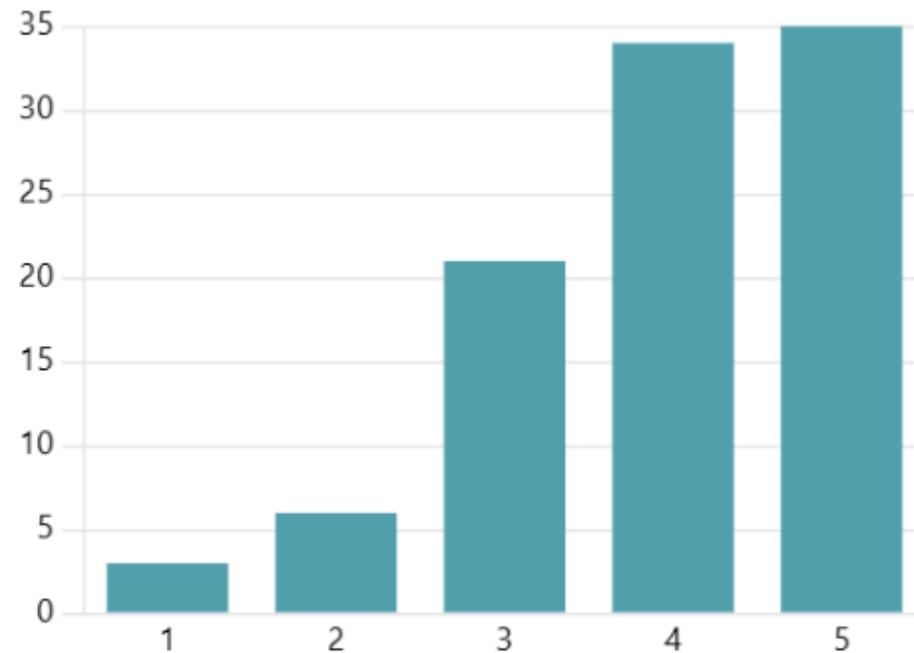
3.78  
平均評価



# 成果：2年生年度末アンケートから

2年間を通して、書く量や頻度はどのくらい増えましたか。

3.93  
平均評価



# 成果：2年生年度末アンケートから

## 理由

- 書くことは元々好きだったけど、新しいジャンルとかに挑戦できる機会が増えて楽しかった。
- 前までは書くことは楽しくない、めんどくさいと思っていたが、たくさん書いていくうちに、自分の思っていることが作品になる、言葉に現れる、見えないものが見えるものになるなど、作品を描くことの良さそして楽しさに気づくことができた。
- 楽しかったから！！！！！！！！！！

➤書く楽しさや意義を実感

# 成果：2年生年度末アンケートから

## 理由

- 学校の課題以外でも、物語をたくさん書いたり、新しい物語のプロットやアイデアをよく考えるようになった。
- 個人的に（学校外で）文章を書くことも増えた。書く機会が増えることで自然と文章構成や内容、技法など、書くことにおいていろいろと上達したと感じる。紙に向かったときの書きやすさ（文章が「出てくる」感じ）も前と比べて確実に上がったと実感している。
- 普通に生活する中でなにか思うことなどをライティングワークショップに向けてスマホに書き留める習慣がついたから。

## ➤書くことの習慣化

# 成果：2年生年度末アンケートから

## 理由

- 元々書くのは好きだったけれどより好きになったし、技術も向上したと思う。また、書くことが好きになったから書く頻度も多くなった。
- 私は元々書くことが好きで個人的に書いていたのですが、中学生に上がってからはなかなか書くことが出来ていませんでした。しかし、課題として書くことが出来て、さらに書く時のコツや技法なども学ぶことができ、私にとって書くことがより大事な存在になったと思うからです。

➤ **書くスキルの向上、コツや技法の獲得**

# 成果：2年生年度末アンケートから

## 理由

- ・初めて詩や戯曲などを書いてみて、最初の方は自分の良さを出す、というより、期限までに終わらせるということに重きを置いていたけれども、2年生になり、自分の良さをどれだけ反映させれるかに重きを置くことができたから。
- ・戯曲への挑戦があったことで、とても好きになった。戯曲を書く機会はなく、国語の授業があったからこそ書くことに出会えたからだ。自分で脚本することにワクワクした。

➤ **ジャンルに関する知識の獲得**

# 成果：2年生年度末アンケートから

## 理由

- なんか凄かったです。すごく沢山できて、詩集ができそうなレベルに溜まっています。
- 前より題材が早く決まったり、スラスラ書くことができるようになった。また、私は詩を毎学期書いているので量や質の増え方が見える。
- 一年生の時は書くことが少し恥ずかしかったり、なんか苦手意識があったりしましたが、2年生になってからそういうのもある程度吹っ切れた気がするからです。

➤書き手としての自己認識の深まり

# 成果：2年生年度末アンケートから

## 理由

- ・二年間を通して自分の好きなジャンルを見つけることができました。そしてそれを書き続けているうちに少しずつ内容を考えるのに慣れていって最終的に楽しさを感じるようになりました。一番最初に作った文章はぎこちないけれど、時間をかけて直していくと少しずついい感じになっていくのが成長のようなものを感じて楽しいです。ジャンルにもよりますが、少なくとも好きなジャンルに対しては二年前と比べれば自分の思いを作品に乗せるのが上手になったかなと思います。

➤書き手としての自己認識の深まり

# 成果：2年生年度末アンケートから

## 理由

- 学校の課題以外でも、物語をたくさん書いたり、新しい物語のプロットやアイデアをよく考えるようになったし、ライティングワークショップで学んだことを活用できていると思ったから。
- ライティングワークショップでは、この授業を受ける前と比べて、書く力がとてもつきました。文章を書くときだけでなく、なにかスピーキングとして話すときにも、文章の構成を思い出して利用していくことができました。

➤ **他の技能や場面への転移**

# 成果：2年生年度末アンケートから

ライティング・ワークショップを通して、どんな力がつきましたか？

- 書く力
- 書くことの重要さ
- 自分の思いや伝えたいことを言葉に変え、文にする力。
- 好きを形にする力！
- 表現力

# 成果：2年生年度末アンケートから

ライティング・ワークショップを通して、どんな力がつきましたか？

- 創造力
- 自分の頭を整理する力や、創造的に物事を考えられるようになった
- 自分の頭の中を言語化すること。
- 想像力。アイデアを広げていく力
- アイデアが思いつくようになった
- 自分のアイディアをノートに整理する力
- アイデアを形にする力
- 世界の中で起こっている事象を探す力

# 成果：2年生年度末アンケートから

ライティング・ワークショップを通して、どんな力がつきましたか？

- 文章の構成能力
- 物事を論理的に述べる方法
- 文章を組み立てる力
- 文章を書くスピードを上げられるようになった
- 集中力
- 考える力
- テストの記述問題ですぐに文章を考える力

# 成果：2年生年度末アンケートから

ライティング・ワークショップを通して、どんな力がつきましたか？

- 語彙力
- 洒落た言葉
- 文法的な意識や日本語力。日本語力・日本語で書く力。
- 基礎的な国語に関する知識
- 文章の誤字脱字や言葉の使い方など、意識して書いていくこと
- 書き言葉と、話し言葉を使い分けられる力
- 普段使わないような丁寧な言葉の使い方
- 敬語のただししい使い方

# 成果：2年生年度末アンケートから

## ライティング・ワークショップを通して、どんな力がつきましたか？

- 文学の形態を自由に選べるようになった。
- 文学などの知識の量、作品のジャンルそれぞれの特徴と良さなど。
- 自分が初めて書くジャンルの作品のコツや形式、そのジャンルの存在する意義
- 沢山のジャンルを、今までの私には簡単に思いつかないような内容を書けるようになった
- やったことのないジャンル、詩、短歌、説明文などの書き方
- 戯曲などの特殊なジャンルの文法や書く規則

# 成果：2年生年度末アンケートから

ライティング・ワークショップを通して、どんな力がつきましたか？

- 感情表現や動作の言語化
- 場面の盛り上げ方とか場面の設定の仕方、戯曲特有の上手と下手を理解すること
- 物語や作品を書く自由性について知ること
- 苦手なジャンルなどもある程度書けるスキル

# 成果：2年生年度末アンケートから

ライティング・ワークショップを通して、どんな力がつきましたか？

- 期日前にやりきる力！！！！
- 限られた時間にまとめる力
- 締め切りを守る力(2年生3学期は大失敗)
- 計画する力
- 完成させる力

# 成果：2年生年度末アンケートから

ライティング・ワークショップを通して、どんな力がつきましたか？

- ・ 色々な作品とかに触れて、良いところを吸収する力
- ・ 作品を見る力、読み取る力
- ・ 人の作品を読み解き、分析する力
- ・ 自分の作品に対する自己評価する力
- ・ 普通の文章を読解する能力
- ・ 読むことを楽しむということ
- ・ 昔の作品の良さを感じる力、プロの表現方法など

# 課題に感じていること

## ① 絶対的な時間数の不足

- 週2時間しかない& 1回の授業も50分しかない
- 書く時間は多くて30分（のってきた頃に終わってしまう）
- ミニレッスンで扱いたい内容を扱いきれない（ジャンルなど、もっと色々な詩歌を読ませたい）

## ② 書くことの日常化が不十分

- 授業の中だけで取り組む生徒や義務感で書いている生徒もまだ多い
- アイデアノートの活用にかかなりの個人差がある

# 課題に感じていること

## ③ 個人学習と協働学習の使い分け

- 静寂を大切にしたいが、ざわついてしまう日もある
- 話すことでアイデアの広がり・深まりを感じる生徒も多い
- 自由座席をどこまで許容するか
- 相談シートの活用を試みたこともあったが、機能していない

## ④ 校正をもう少し丁寧になりたい

- 提出がどうしても学期末に集中してしまう
- 校正項目リストがあまり機能していない

# 課題に感じていること

- ⑤ 日々のノートや、ポートフォリオを効果的にしたい
  - ・見返しやすい整理のさせ方を模索中
- ⑥ 持続可能性や汎用性がどこまであるか
  - ・教科書を用いた学習との兼ね合い（山根先生ありき）
  - ・言語知識の学習（漢字・文法）をどうするか
  - ・評価や校正が大変
  - ・教員も書き手としての力をつけるために学び続けたいといけない

# ご意見をいただきたい点

## ① 評価の仕方は適切か？

- ・ ノルマの提出（作品数）、ジャンルの縛り、ルーズリックを用いた評価（評価対象、ルーズリックの文言、観点）
- ・ 真面目、几帳面な生徒が高い評価を得る傾向

## ② カリキュラムや系統性をどう考えるか？

- ・ ジャンルに重点を置いてミニレッスンを組織することの是非
- ・ ジャンルや技法の指導

# ご意見をいただきたい点

## ③ より良い手立て

- ・書くことをさらに日常化するためには？
- ・意欲や取り組みの差を埋めるためには？
- ・授業外でのコミットの仕方
- ・より良いカンファランスや看取り、フィードバックのあり方

## ④ 領域や内容の偏りにどこまで目をつむるか

- ・「話す・聞く」の指導
- ・長文の論説文の読解
- ・文学や短いものに偏りがち

# ご意見をいただきました点

## ⑤ 読書活動を推奨するための手立て

- ・ブックトークや「読書記録用紙」の活用を試みたこともあったが、あまり機能していない
- ・2年生では年間を通してブッククラブに取り組んだ
- ・絶対的な読書量や触れる作品数を増やしたい

## ⑥ いわゆる学力（読解）テストへの対応や、高校の学習内容との接続

# 参考文献

アトウェル,N. (2018) 『イン・ザ・ミドル』 三省堂

フレッチャー,R. & ポータルピ,J. (2007) 『ライティング・ワークショップ』 新評論

プロジェクト・ワークショップ編 (2008) 『作家の時間』 新評論

あすこま 『あすこまつ！』 <https://askoma.info/>

廣瀬ほか (2023) 「書くプロセスにおける概念の活用と転移」 『国際中等教育研究』 16,p.105-126